

外国人台帳制度に関する懇談会（第3回）議事概要

- 1 開催日時：平成20年6月16日（月）10：30～12：30
- 2 開催場所：総務省6階601会議室
- 3 出席委員：藤原座長、小田島委員代理、角委員、竹腰委員、中西委員、西邑委員代理、日高委員、細越委員、山脇委員、吉岡委員

4 主な議題：

外国人有識者からのヒアリング：

日中交流研究所所長・日本僑報社編集長	段躍中 様
元静岡県立大学教授・評論家	金両基 様
龍谷大学経営学部教授	李洙任 様
豊橋ブラジル協会会長・NPO 法人日本ファミリー育成協会理事長	田中アルシデス・ヒデオ 様

5 議事の概要：

- ・ ブラジル人などニューカマーについては、1990年代は出稼ぎ目的で単身来日するが多かったが、現在は、家族を伴って来日し、滞在期間が長期化するなど定住化の傾向にある。
- ・ 混合世帯について、家族関係が「1枚の証明書」に記載されるようになると、従来のシステムより改善したと言えるのではないか。
- ・ 転入時に各種行政サービスの手続きのワンストップ化がなされるなど利便性の向上につながることは好ましい。
- ・ 外国人台帳の開示のあり方や情報の正確性を確保するための措置については、基本的に、日本人と同様の扱いとし、人権にも配慮することが重要ではないか。
- ・ 外国人にとっても行政側にとってもメリットがある制度とすることが望ましい。在留外国人の利便性と行政（国・地方公共団体）の合理化に資する制度を目指すものと理解しており、関係者が安心して利用できる制度としてもらいたい。
- ・ 制度設計にあたっては、現行制度の問題点を未来志向で解決し、共生時代のさらなる発展を目指していくことが必要ではないか。

(以上)